

26 立山の鍵かぎ（塚原）

日本三霊山の一つである立山は、東の空にそびえて見えます。

そこから遠く離れた射水野の庄川原に、寺塚原という村があり、ここに、佐伯という一族がいます。むかしから、立山の奥宮の鍵は、この佐伯の家に保管されてきました。

毎年の山開きには、立山下からこの鍵を受け取りに来て、山じまいには納めにきて、雄山へ帰っていったそうです。

この鍵は、立山の鍵と呼ばれ、たいへん大切なものでした。

天正の頃、佐々成政が攻めてきて、

「立山の鍵を渡せ！」

と命じたが、

「この鍵は、われわれ佐伯一族が、代々お守り申しあげてきた大切な品でございます。お渡しすることはできません。」

とことわりました。

そのために、佐伯家は焼け討ちに合い、多くの財宝をなくしました。

この鍵は、持ち運びに手数がかかるので、いつのころからか、立山の佐伯家に引き渡しました。

このようなことから、塚原の青年が立山登山に行くときは、山銭を出さずに入山することができました。村人たちは、このことを長く誇りにしてきたということです。

